

# 自己点検・自己評価と学校関係者評価 総括表

釧路労災看護専門学校

【評価尺度】 3:よく当てはまる 2:大体当てはまる 1:当てはまらない

カテゴリー	評価項目	評価	平均	自己点検・自己評価(行動計画)	評価	平均	学校関係者評価	
I 教育理念・教育目的	1-1 教育理念・教育目的は、自養成所の教育上の特徴を示している。	3	2.9	設置母体の精神に基づき全国労災看護専門学校共通の教育理念を掲げ、それに基づき本校の教育目的を明示している。 看護師養成所および専修学校として認可を受けており、14条報告も承認されており、看護の専門職業人教育機関としての法的整合性に問題はない。 教育理念・教育目的・教育目標は、「学生生活ガイダンス」に明記し、入学時学生に配布・説明している。また、日常的に目に触れ意識できるよう教室・玄関・講堂等にも掲示している。 「学生生活ガイダンス」には、看護師専門職としての資質及び対象や看護のとらえ方など年次別到達目標に具体的に示している。教育課程の考え方や教育内容・方法について詳細に提示していることから、学生は学習の指針となり、教員もまた教育活動の指針にしている。 「勤労者医療に貢献できる看護の実践者を育成する」という設置母体の理念の実現のために、4科目105時間を設定しており、それらも含めて教育課程の873時間(29.1%)の内容が関連する(2013年12月検討)。2015年度の自己点検評価を受けて、各教員の担当する専門分野について、シラバスおよび講義実績に勤労者医療の該当箇所を明示することとしたが、徹底できていない。次年度、シラバスの様式を修正し、専任教員は統一した様式で勤労者医療該当箇所を明記することとする。また、ガイダンスにも次年度は勤労者4科目を明示し、勤労者医療の取り組みが学生にも伝わりやすいように工夫していく。	3	2.9	自己評価について支持する。 教育理念については、機構の役割を明記し周知していることで、教員、学生ともに同じ方向を向いていることが理解できる。また、教育に関する考え方や卒業後の看護師像も提示されていることで、より明確な学習指針が示されている。	
	1-2 教育理念・教育目的は法との整合性がある。	3						
	2-1 教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に示している。	3						
	2-2 教育理念・教育目的は実際に学生の学習の指針になっている。	3						
	3-1 教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育内容を設定しているかを述べている。	3						
	3-2 教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育方法をとるのかを述べている。	2						
	3-3 教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育環境をとるのかを述べている。	3						
	4-1 教育理念・教育目的は、看護、看護学教育、学生観について明示している。	3						
	4-2 看護、看護学教育、学生観は実際に教師の教育活動の指針となっている。	3						
	5-1 教育理念・教育目的は、養成する看護師等が卒業時点においてもつべき資質を明示している。	3						
5-2 卒業時点にもつべき資質は、社会に対する看護の質を保障するのに妥当なものとなっている。	3							
II 教育目標	1 教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性がある。	3	3.0	教育目標は、教育理念・目的を達成するために必要な教育内容について、目標として表現されており一貫性もある。また、目標設定に至る過程は、「教育課程の考え方」に明示している。 教育目標は、教育内容を網羅し、最上位の向上目標として提示している。それらは段階的に到達できるよう年次別到達目標として具体的に実現可能なレベルで示している。 カリキュラム改正に向けて、教育目標の評価を実施し、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーに関して動向を踏まえて整理していきたい。 学習者としての成長を促す側面の目標は4に、それ以外は看護実践者としての能力を育成する側面の目標に設定している。 学習者としての成長を促進する教育目標は設けており、目標における結果としては、ほぼ100%が看護師として就業している。また、卒業生の中には、就業義務年限を終えてから助産師や保健師、認定看護師資格取得を目指す者が増えている。当校の主たる設置目的は、「当該組織に従事する看護師の育成」であるが、キャリアアップ可能な看護師の育成を目指していく。	3	3.0	自己評価について支持する。 教育理念、教育目的、教育目標の一貫性が認められ、現実的な到達レベルもきちんと明示されている。	
	2-1 教育目標は、設定した教育内容を網羅している。	3						
	2-2 教育目標は、最上位の目標として、教育活動のゴールが読みとれるものとなっている。	3						
	3-1 教育目標は、目標内容と到達レベルが対応している。	3						
	3-2 教育目標は、具体的に実現可能なものとなっている。	3						
	4 看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している。	3						
	5 卒業後の継続教育の考え方を示した上で、教育目標を設定している。	3						
	III 教育課程経営	教育課程経営者の活動			1-1 教育課程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育評価との関連性を明確に理解している。			3
1-2 教育課程編成者と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている。			3					
教育課程編成の考え方とその具体的な構成		1-1 看護学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	3	3.0	教育目標をもとに、授業科目や時間数を設定している。今後の新カリキュラム改正に向け、より検討していく必要がある。 教育目標に沿い、年次別到達目標を設定している。教育課程編成の考え方とその構成は年間教育計画を含めてガイダンスに明示している。 理想とする看護師像と現代学生の特徴から教育目標を設定し、教育課程を編成している。	3	3.0	自己評価について支持する。
		1-2 学修の到達について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	3					
		1-3 学生の成長について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	3					
科目、単元構成		1-1 明確な考え方と根拠をもって科目を構成している。	3	3.0	解剖生理学や疾病と治療、リハビリテーションなど複数の単元を複数の講師に分担するような科目もあるが、マトリクスを作成し科目・単元についての明確な考え方と根拠をもとに構成している。 科目・単元の構成は、教育理念・教育目的、教育目標からおろして考えられており整合性がある。 指定科目を遵守したうえで、現代学生の特徴を考慮した科目立てや、当校の特徴として勤労者医療を科目に取り入れており妥当である。 時期と方法を考慮して組み立てられており、学生の知識や意欲に合わせ、かつ勤労者医療を担う看護師の育成を目指した科目構成になっている。	3	3.0	自己評価について支持する。
		1-2 明確な考え方と根拠をもって単元を構成している。	3					
		1-3 科目と単元の構成の考え方は教育理念・目的、教育目標と整合性がある。	3					
		2-1 構成した科目は看護師等を養成するのに妥当である	3					
		2-2 構成した科目は養成所の特徴をあらわしている。	3					
教育計画		1-1 単位履修の方法とその制約について教師・学生の双方がわかるように明示している。	3	3.0	単位修得に関する規定は、ガイダンスにわかるように明示されている。 再履修・聴講を取り入れ、学生にとって不利益とならずに学習できるよう支援している。 時期と方法を考慮して組み立てられており、学生の知識や意欲に合わせた配列となっている。	3	3.0	自己評価について支持する。
		1-2 単位履修の方法は学生の単位履修を支援するものとなっている。	3					
		2 単位履修制の考え方を踏まえつつ、看護師等になるための学修の質を維持できるように、科目の配列をしている。	3					
教育課程評価の体系		1-1 単位認定の基準は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。	3	3.0	学則第5章 学業成績に単位修得の認定について記載されている。 学則第5章 学業成績に試験、臨時試験について記載されている。 学則第5章 学業成績に既修得単位の認定について記載されている。また、生涯学習の観点から学修を支援する上で、他の高等教育機関における履修単位の単位互換体制が整えられている。 客観的な評価資料として、講師・教員を対象とした学生による授業評価を行いデータを収集している。講義や実習の評価は全て行い、評価結果は講師や実習先に提示している。評価項目の妥当性については検討を行い修正していく予定である。 評価結果の取り扱いについては、当校の「個人情報保護に関する方針」で定めており、評価者に不利益を被ることがないように配慮している。	3	3.0	自己評価について支持する。
		1-2 単位認定の方法は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。	3					
		2 他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている。	3					
		3-1 教育課程を評価する体系を整えている。	3					
		3-2 評価結果の活用における倫理規定を明確にしている。	3					

# 自己点検・自己評価と学校関係者評価 総括表

釧路労災看護専門学校

【評価尺度】 3:よく当てはまる 2:大体当てはまる 1:当てはまらない

カテゴリー		評価項目	評価	平均	自己点検・自己評価(行動計画)	評価	平均	学校関係者評価	
教員の教育・研究活動の充実	教員の教育・研究活動の充実	1-1 教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している。	3	2.8	専門性を考慮しつつ教員間で授業時間数に大きな差が出ないように調整されている。	3	2.8	自己評価について支持する。 教員の専門性を高めモチベーションを維持するため、よりいっそう研修参加や研修計画の充実をお願いしたい。	
		1-2 教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている。	3		授業準備のための時間は確保されている。	3			
		2-1 教育課程の実践者である教員が自ら成長できるよう、自己研鑽のシステムを整えている。	3		1回/年、地域での教育研修会が開催されている。他の学会・研修参加については前年度内に計画され、時間的および予算的に保障されている。計画されていない研修についても予算は確立されている。	3			
		2-2 教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている。	2		シラバス・講義実績・授業評価を自由に閲覧できるシステムは整えられている。研修・学会等の復命書を回覧しているが、教務会議での資料の共有や報告は十分にできていない現状である。対策として、研修・学会参加後、2週間以内に復命書の回覧を終え、1か月以内に教務会議にて報告することを遵守する。	2			
	学生の看護実践体験の保障	学生の看護実践体験の保障	1-1 臨地実習施設は、養成所の個別の教育理念・教育目的、教育目標を理解している。	3	3.0	当校の教育理念・目的・目標を達成するのに適した実習施設の検討・開拓を行っており、実習打ち合わせ会議にて、教育理念・目的・目標を基盤に各実習の目的・目標・方法を説明している。	3	3.0	自己評価について支持する。
			1-2 臨地実習施設は学生の看護実践の学習を支援する体制を整えている。	3		各実習施設において実習指導者(責任者)が配置されており、物品や学習する環境が整えられている。	3		
			2-1 臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者の役割を明確にしている。	3		実習指導における臨地実習指導者や教員の役割について明文化している。今後、各役割についての考え方がさらに浸透できるように、病棟配布の実習要項に記載していくこととする。	3		
			2-2 臨地実習指導における学生の学びを保障するために、教員の役割を明確にしている。	3			3		
			2-3 臨地実習指導者と教員の協働体制を整えている。	3		5回/年の臨地実習指導者会議を開催し、実習目標や実習方法、評価結果について確認を行い、実習における臨床からの意見をタイムリーに共有し実習方法について検討できる協力体制が整っている。	3		
			3-1 学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示している。	3		実習要項に看護学生としての責務として、説明と同意、個人情報保護などについて明示している。	3		
			3-2 対象者の権利を尊重する考え方に基づいて、学生への指導を計画的に行っている。	3		各学年の実習開始時のオリエンテーションで実習調整者から説明を受け、2年次は個人情報管理についてグループワークを行っている。新カリキュラムでは、倫理に関する科目の追加を検討していく。	3		
			4-1 臨地実習において学生が関係する事故を把握、分析している。	3		実習中の事故対応マニュアルに事故発生時の報告ルートを示している。報告を基に適宜、分析・対応を講じ、2回/年、臨地実習指導者会議にて傾向対策について報告・検討している。	3		
			4-2 学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っている。	3		実習要項に災害時の行動指針を示している。各学年の実習開始時のオリエンテーションで実習調整者からの説明や、各実習担当教員から説明している。	3		
			IV 授業・学習・評価過程	授業内容と教育課程との一貫性/看護学としての妥当性/授業内容間の関連と発展		1 授業の内容は、教育課程との関係において、当該学生のための授業内容として設定されている。	3		
2-1 授業内容のまとまりの考え方を明確に述べている。	3	授業内容は科目目標との整合性を踏まえて明確に述べられている。			3				
2-2 授業内容のまとまりの考え方は、科目目標との整合性をもっている。	3	各科目の目標と授業内容は整合性がある。			3				
3 授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある。	3	社会情勢を踏まえ看護師教育内容の改正案に基づいて看護学を構成する科目や単元、当該授業の意図に沿った内容であるかを新カリキュラム会議において話し合い検討した上で設定している。			3				
4 授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている。	3	授業内容間の関連について検討した上でシラバス、講義内容を作成し重複や整合性は明確になっている。授業の関連・発展性について明確に学生に提示している。			3				
授業の展開過程	授業の展開過程	1 授業形態(講義、演習、実験、実習)は、授業内容に応じて選択している。		3	3.0	各講師とも授業内容に応じて視覚教材や協同学習、演習等取り入れている。	3	3.0	自己評価について支持する。
		2 授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践している。		3		シラバス作成および授業計画は学習目標を含め明記し実践している。	3		
		3 授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している。		3		講義前までにシラバスの提示・配布および特別講演や卒業記念講演を開催している。看護技術は看護技術習得過程マトリックス作成し技術取得に向けて取り組んでいる。実習では基礎看護技術チェックリストを用いており、卒業時の到達状況を踏まえ改善できるよう取り組んでいる。	3		
		4 学生に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。		3		教員間の統一性、協力体制をはかるために教務会議で適時検討している。臨地実習は統一した指導案を用いて教員間の統一性をはかっている。	3		
目標達成の評価とフィードバック	目標達成の評価とフィードバック	1-1 評価計画を立案し、実施している。		3	3.0	授業科目の終講時に評価を配布し講義評価規程に基づき学生からの評価をしてもらっている。進行中の授業での形成的評価では、科目によってリフレクションシートを用いているものもある	3	3.0	自己評価について支持する。
		1-2 評価結果に基づいて、実際に授業を改善している。		3		評価結果はタイムリーに担当講師へ返却し、次の授業改善への参考としている。教員自身も授業評価を元に講義方法や内容の検討を行い、授業の改善に取り組んでいる	3		
		2-1 学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。		3		評価項目には学生自身の授業に取り組む姿勢と教員の教育活動に関する項目があるが、学生へ自己の学習力への集計結果を還元する方法については今後検討していく	3		
		2-2 教育目標の達成状況を多面的に把握している。		3		筆記試験、レポート課題、実技試験、授業態度など多様な評価方法を取り入れて教育目標の達成状況を把握している	3		
		3-1 学生に単位認定のための評価基準と方法を公表している。		3		学則と履修規程について学生便覧に明記し公表している	3		
		3-2 単位認定の評価には公平性が保たれている。	3	学則と履修規程に基づき成績評価を行い、単位認定会議において全委員の承認の下、認定している		3			
		4-1 シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性がある。	3	3.0		シラバスは統一した内容で整備しており一貫性を持って指導できるよう提示している	3		
1-2 シラバスの提示や学習への指導は、学生の学習への動機づけと支援になっている。	3	年度初めに学生にシラバスを提示し、変更時はその都度差し替え講義概要を提示している。学生によってはシラバスを参考に学習を進めており動機づけとなっている	3						



# 自己点検・自己評価と学校関係者評価 総括表

釧路労災看護専門学校

【評価尺度】 3:よく当てはまる 2:大体当てはまる 1:当てはまらない

カテゴリー	評価項目	評価	平均	自己点検・自己評価(行動計画)	評価	平均	学校関係者評価
Ⅴ 経営・管理過程	設置者の意思・指針	1-1 養成所の管理者は教育理念・教育目的についての考え方を明示している。	3	3.0	機構の理念に基づき、勤労者医療の充実を図るための看護師教育について明示している。	3	自己評価について支持する。
		1-2 養成所の管理者は教育課程経営についての考え方を明示している。	3		学校運営会議及び職員会議で検討のうえ、「学生生活ガイドンス」で明示している。	3	
		1-3 養成所の管理者は教育評価についての考え方を明示している。	3		機構の内部業績評価及び自己点検・自己評価マニュアルに明示している。	3	
		1-4 養成所の管理者は養成所の管理運営等についての考え方を明示している。	3		学校運営会議及び職員会議で検討のうえ、「運営計画書」で明示している。	3	
		1-5 明示した管理者の考えと、設置者の意思とは一貫性がある。	3		機構の理念および運営指針に基づき「運営計画書」が作成されている。	3	
		1-6 教職員は養成所の設置者と管理者の考え方を理解している。	3		毎年実施している職員アンケート調査の「理念等の理解度」で93.3%の評価を得ている。	3	
	組織体制	1-1 養成所の組織体制は、教育理念・目的を達成するための権限や役割機能が明確になっている。	3	3.0	学則内の組織図と学校業務指針により明確になっている。	3	自己評価について支持する。
		1-2 意思決定システムが明確になっている。	3		業務分掌表にて明確になっている。	3	
		1-3 意思決定システムは、組織構成員の意思を反映できるように整えられている。	3		学校運営会議、職員会議及び教務会議の参加メンバーであり、発言が反映されるシステムが整っている。	3	
		1-4 意思決定システムは、決定事項が周知できるように整えられている。	3		学校運営会議、職員会議及び教務会議で決定事項が周知できるシステムが整っている。	3	
		2-1 組織の構成と教職員の任用の考え方と、教育理念・教育目的達成との整合性がある。	3		教員選考基準に明記され、選考基準は教育目的と整合性がある。	3	
		2-2 教職員の資質の向上についての考え方と対策には教育理念・教育目的達成との整合性がある。	3		本校の教育目的を達成するための教員の資質向上をわらった本部研修や学会等に参加できるシステムが整っている。	3	
	財政基盤	1-1 財政基盤を確保することについての考え方が明確である。	3	2.5	運営計画書及びBSCに考え方が記載されていて明確である。	3	自己評価について支持する。 引き続き、限られた予算の中で中長期的視野に立った設備や機器の整備計画を立案し、計画的に執行・管理していただきたい。
		1-2 財政基盤を確保することについての考え方は、学習・教育の質の維持・向上につながっている。	2		運営計画書に基づき、教育・経営及び管理について教職員でPDCAサイクルを活用し、質の維持・向上につなげていきたい。	2	
		2-1 教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解している。	2		運営計画書作成時に職員会議等で周知しているが、今後より詳細に説明し理解を深めていきたい。	2	
		2-2 教職員のそれぞれの観点からの財政についての意見は、経営・管理過程に反映できるようになっている。	3		職員会議及び教務会議で教育の視点から要望を取りまとめ、経営・管理に反映させている。	3	
	施設設備の整備	1-1 学習・教育環境の整備について、管理者の考え方を明示している。	3	3.0	「運営計画書」及び「BSC」に学習・教育環境の整備について、記載のうえ維持・向上に取り組んでいる。	3	自己評価について支持する。
		1-2 管理者の考えに基づいて整備計画を立案し、実施している。	3		「機器等整備計画書」に基づき、優先順位をつけて中長期的な整備を行っている。	3	
		2-1 看護の専門職教育に必要な施設設備を計画的に整備している。	3		実習に係る機器等について、計画的に新規購入や更新を行っている。	3	
		2-2 医療・看護の発展や学生層の変化に合わせて、施設設備を整備・改善している。	3		「運営計画書」及び「機器等整備計画書」に基づき、学習支援システムの更新を行っている。	3	
		3-1 養成所が設置されている地域環境との関連から学生および教職員にとっての福利厚生施設設備の整備を検討している。	3		福利厚生のための施設を整備し、希望する学生及び教職員に開放している。	3	
		3-2 学生が学生生活を円滑に送り、教職員が職務を円滑に遂行できるように施設設備を整備している。	3		セミナー室(7室)を設け、個別指導できる環境を整えるとともに、校内各フロアに他学年との交流も図れるよう飲食可能な多目的ラウンジを設けている。	3	
	学生生活の支援	1-1 学生が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的に整えている。	3	3.0	本機構と日本学生支援機構の奨学金制度が受けられるシステムにより経済的支援をしている。学修面では担任制は取っていないが教員のアドレスや担当役割を提示しいつでも相談できる体制を整えている	3	自己評価について支持する。
		1-2 学生が活用しやすいように学生生活の支援体制を整えている。	3		奨学金制度に関しては事務が、学習については教員がそれぞれに役割を持ち担当している。健康面については教員の他、スクールカウンセラーによる相談窓口を設けている。各学年、年2・3回の面談を教員全員で分担して行い、相談できる機会を整えている	3	
		1-3 支援体制は、実際に学生に活用され、学修の継続を助けている。	3		実際に担当教員を確認し個別に相談する学生もおり、学生の学修継続への支援体制は整っている	3	
	養成所に関する情報提供	1-1 教育・学習活動に関する情報提供を関係者(保護者等)に行っている。	3	3.0	入学時の保護者会で、学校概要、教育課程、学則、学校生活に係る規程、就職などについて説明している。また学習活動の一部をホームページに公開し、年2回保護者宛てに成績表を送付している。成績不振の学生や実習未及第者については、保護者に説明し学習支援を依頼している。健康問題(特にメンタルヘルス)についても保護者と情報交換し、健康支援・学業継続に繋げている。	3	自己評価について支持する。
		1-2 関係者(保護者等)への情報提供は関係者から協力・支援を得ることにつながっている。	3		ホームページで各種行事等きめ細かな情報を発信するとともに、オープンキャンパスや病院見学も継続して実施していく。また、高校訪問を積極的に行い、各校進路指導部長との面談を延べ21校(39回)実施している。進学説明会についても全道を範囲に延べ11回参加している。	3	
2-1 看護師等を養成する機関としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行なっている。		3	教育理念やシラバス等がホームページに掲載され周知されている。		3		
2-2 広報の内容は、社会的説明責任を果たすものになっている。		3			3		
養成所の運営計画と将来構想	1-1 養成所は明確な将来構想のもとに、運営の中・長期計画、短期計画、年間計画を立案している。	3	2.5	「運営計画書」に中長期的な展望を示し、それをもとに「資金計画書」を作成し年間計画を立てている。	3	自己評価について支持する。 今後は運営計画書の管理・執行に対し、より詳細な自己点検・自己評価をお願いしたい。	
	1-2 その実施・評価は将来構想との整合性をもっている。	2		展望と目標の整合性を高めるため、職員会議及び評価会議等で実施内容について評価を行い、その評価内容を検証していく必要がある。	2		
自己点検・自己評価体制	1-1 自己点検・自己評価の意味と目的を理解している。	3	3.0	看護師養成所の教育活動に関する自己評価指針(厚生労働省HPより)に基づき、当校の自己点検・自己評価の実施に関する規程に基づき実施している。	3	自己評価について支持する。	
	1-2 実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確にもっている。	3		2019年度から学外者の関係者に評価を依頼することとし、規程を改訂し実施する。学校運営会議及びホームページで結果を公表する。抽出された課題については、優先順位を決定し、計画的に取り組んでいる。	3		
	2-1 自己点検・自己評価体制を整え、運用している。	3			3		
	2-2 自己点検・自己評価は、養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックするように機能している。	3			3		
	2-3 自己点検・自己評価体制は、養成所の教育理念・教育目的、教育目標の維持・改善につながるように機能している。	3			3		

# 自己点検・自己評価と学校関係者評価 総括表

釧路労災看護専門学校

【評価尺度】 3:よく当てはまる 2:大体当てはまる 1:当てはまらない

カテゴリー	評価項目	評価	平均	自己点検・自己評価(行動計画)	評価	平均	学校関係者評価			
VI 入学	1 教育理念・教育目的との一貫性をもって入学者選抜についての考え方を述べている。	3	3.0	推薦・一般入学試験合格者選考委員会規程及び入学者合格判定に関する基準に明記されている。 18歳人口の減少に加えて大学進学率の上昇に伴い、年々受験者数の減少が加速している。また、入学生の学力低下と選抜方法との関連も考察している。高校や近隣の看護学校とも情報交換し、今年度の評価を踏まえて、入試の時期・回数・選抜方法など検討している。	3	3.0	自己評価について支持する。 引き続き、機構の設置意義を理解した学生の確保をお願いしたい。			
	2 入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証している。	3			3					
VII 卒業・就業・進学	1 卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている。	3	2.4	卒業判定会議で全授業科目履修認定と「実習における基礎看護技術チェックリスト」の集計から看護技術の習得状況の把握を行っている。 上記結果を基に分析している。更に、卒業時の到達目標の自己評価を行い卒業直前面接を行い個々の課題を確認している。 卒業生の就業状況は把握しているが、進学は委託制度の為、病院の意向により可能となる。ここ数年は、進学希望者は少ない。 国家試験合格率は昨年は1名不合格であったが、労災病院への就職率は100%で教育理念との整合性がある。 過半数の学生が隣接する労災病院に就職するため、卒業生の状況は把握しやすい環境にある。 隣接する労災病院とは実習はじめ会議などでも情報交換できているが、それ以外の労災病院に就職した学生の状況については、式典の際に積極的に確認している。 ホームページに卒業後の進路を掲載しているが、就業先への調査を依頼し活動状況を把握する体制は課題である。組織外への就職のため証明書発行を行うが、活動状況の把握には至っていない。 卒業時に自己のキャリアの見通しについては、確認している。	3	2.4	自己評価について支持する。 当校の教育の必要性と継続性が保たれるよう、より卒業生の状況の把握・評価をお願いしたい。			
	2-1 卒業時の到達状況を分析している。	2			2					
	2-2 卒業生の就業・進学状況を分析している。	3			3					
	2-3 卒業生の到達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。	3			3					
	3-1 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。	2			2					
	3-2 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。	2			2					
	4-1 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。	2			2					
	4-2 卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。	2			2					
VIII 地域社会／国際交流	地域社会	1-1 社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している。	3	3.0	ボランティア活動を通し社会福祉協議会との連携や、市役所や地域包括支援センター等の実習施設との打ち合わせを通し、地域社会のニーズ把握に努めている。また、進学説明のための高校訪問も行っている 自治会のもランティア委員会を中心に、ボランティア活動に参加している。(献血、リサイクル活動など)学校祭は一般開放しチャリティバザーや健康チェックなど地域住民との交流を図っている。また、ふれあい広場、赤い羽根共同募金、車いすマラソンの応援などにも積極的に参加している。 実習先の施設や高校訪問などからニーズを把握している。また、今後はHP内の「お問い合わせ」からも、地域からのニーズを把握することとしている。(現状はオープンキャンパスや学校見学の問い合わせ) 本校のHPから情報発信の手段あり。そのほか、学校訪問、オープンキャンパス、学校見学も発信手段となっている。 職員各自が報道や研修などから把握。今年度はカリキュラム改正に伴い教員全体での意見交換予定 老健施設、老人センター、特別養護老人ホーム、保育園のほか、障がい者社会復帰施設などで見学・実習を行い教育に取り入れている。また、市役所や各施設のHPやパンフレットも調べ学習や教材に取り入れている。認知症サポーター講座やDV出前講座も依頼している。	3	3.0	自己評価について支持する。		
		1-2 看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的にしている。	3			3				
		2-1 養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段をもっている。	3			3				
		2-2 養成所から地域社会へ情報を発信する手段をもっている。	3			3				
		3-1 養成所が設置されている地域の特徴を把握している。	3			3				
		3-2 地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている。	3			3				
	国際交流	1 国際的視野を広げるための授業科目を設定している。	3			2.0	英語の科目では、医療英語や医療現場に役立つ英会話を中心とし、国際的な医療現場に対応できる英語力を養うことをねらいとしている。「総合医療論」や「看護管理」の科目にて、国際交流や国際看護に関する内容を教授している。 情報科学室に学生1台のパソコンを設置し、インターネット環境を整えている。また、学校全体でもインターネットを利用できるようにWi-Fi環境を整えている。 入学試験では国籍、留学生に関係なく受け入れている。積極的に体制を整えているまでには至っていない。 JICAや短期留学の案内などを掲示板に張り出したり、パンフレットを配布するなどの情報提供は行っている。しかし、希望者へ対応できる体制までは至っていない。	3	2.0	自己評価について支持する。 機構の求める「勤労者」に幅広く対応できるよう、引き続き授業科目や学習環境の整備に努めていただきたい。
		2 国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている。	3					3		
		3 海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えている。	1					1		
		4 留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制を整えている。	1					1		
IX 研究	1 教員の研究活動を保障(時間的、財政的、環境的)している。	3	2.7	研究費の支給や学界の計画的参加など、財政的・環境的面で保証は十分にある。 研究費も支給され、個人の主体性によってはできる環境は整えられている。しかし、現状では業務の多忙などで計画的に研究に取り組むことも難しい状況である。 人員不足、業務量から、独立した研究課題への取り組みは難しい状況ではある。しかし、学会参加後の情報提供や課題の発表が行われ、看護技術を中心に講義内容や方法、評価などの話し合いなど、研究的視点での活動は日々行われている。釧路・帯広地区での看護学校合同研修会も毎年実施され、学校間でのネットワークも取りやすい環境にある。	3	2.7	自己評価について支持する。 引き続き、教員が自主的・計画的に研究できる環境整備に努めていただきたい。			
	2 教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている。	2			2					
	3 研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所内にある。	3			3					
-	全項目平均値		2.9	全項目平均値		2.9	-			